



新潟青陵幼稚園だより

令和4年度
6月号
5月25日

幼児期の生き物との関わり方

園長 太田 伸男

私が、小学校3年生の夏休みのことです。自由研究でアゲハチョウの幼虫を飼育し、蛹から羽化して成虫になるまで観察日記をつけました。そして、そのチョウを昆虫標本の一つとして提出しました。標本を見た友だちから、「アゲハチョウがかわいそう。」と言われて、ハッとしました。感受性の豊かな人は、虫の命を自分の命と引き付けて悲しむことに気付かされました。

それまでの私はというと、虫取り網を持って外を駆け回り、アブラゼミや赤トンボで虫かごがいっぱいになるまで捕まえていました。足が取れたり死んだりしても、空き地の草の上に置いて来るくらいでした。その死を悲しむことは、あまりなかったように思います。それが、この出来事をきっかけに、虫にも自分と同じ命があると考えようになりました。



生き物の命や死に対する感性は、その人の育つ環境によって違ってきます。幼児期の子どもたちは、生き物を自分と同じ生き物・仲間として受け入れることができます。この時期に色々な生き物を捕まえて飼ってみたり、産んだ卵から幼虫や成虫まで育ててみたりすることは大切な経験です。また、生き物の死に出会うことも、命を大切に思う心を育てます。

5月20日の朝、青ばら1組のA男君が、保育室で飼育していたトカゲの1匹が死んでしまったと教えに来てくれました。手に抱えた木の箱には、死んだトカゲの周りにきれいなお花と水が供えてありました。青ばら1組の子どもたちは、園庭に棲むトカゲを苦労して捕まえていました。トカゲをペットのように可愛がり、餌をやり続けてきました。死んだトカゲとは学級全員でお別れし、お墓を作って埋めてあげました。死を悼む気持ちは、飼育していた時の関わりが多いほど、深くなります。



5月の園庭では、ダンゴムシをたくさん見掛けます。14本の足をちょこまか動かして歩む姿がユーモラスです。また、動きが遅くすぐに丸くなるダンゴムシは、幼稚園の子どもたちにとって、捕まえやすい虫です。晴れている日には、「ペットボトルください!」と言ってくる子が多く、捕まえたダンゴムシを入れて自宅に持ち帰っています。ご家庭では、お子さんが連れ帰ってきた生き物を、どのように扱っておられるでしょうか?

私は、ナメクジのぬるぬるしたところが苦手です。蚊を見付けたら、追いかけてパチンと叩いてしまいます。それでも、子どもたちの前では嫌な顔を見せないように、できるだけ他の生き物と同じように接するようにしています。保護者の皆様にも、それぞれ苦手な生き物があると思います。それでも、生き物を可愛いと思っている子どもたちの前ではその心に共感し、できるだけ寄り添っていただけるとありがたいです。

6月の予定 給食：○全園児 ★星の子

日	曜	給食	降園時間	行 事
1	水	○	14:30	
2	木	○	14:30	
3	金	○	14:30	
4	土	/	/	
5	日	/	/	
6	月	○	14:30	
7	火	○	14:30	歯科検診 各学年1組
8	水	○	14:30	歯科検診 各学年2組
9	木	○	14:30	
10	金	○	14:30	
11	土	/	/	
12	日	/	/	
13	月	○	14:30	
14	火	○	14:30	
15	水	★	11:30	誕生会 6月生まれさんのおうちの方も一緒にお祝いしましょう。
16	木	○	14:30	
17	金	○	14:30	
18	土	/	/	
19	日	/	/	
20	月	○	14:30	プール遊び開始 水着のご用意をお願いいたします。
21	火	○	14:30	
22	水	★	11:30	個人懇談・午前 詳細は各クラスのお便りをご覧ください。
23	木	★	11:30	個人懇談・午前 〃
24	金	★	11:30	個人懇談・午前 〃
25	土	/	/	
26	日	/	/	
27	月	○	14:30	
28	火	○	14:30	
29	水	○	14:30	
30	木	○	14:30	